

- 12月2日(水) 15:30～16:50
- 同窓会館(時習館) 多目的ホール
- 記録 藤川孝志

・出席者 (協議会委員) PTA 会長 松原市立松原中学校長
同窓会長 元保護者 有識者(大阪教育大学教授)
松原市町会連合会会長代行
(学校・事務局側) 校長 教頭<事務局長> 事務長 首席二名
総務部長 進路指導主事 保健主事 自治会部長 図書部長

1 開会宣言

2 校長挨拶

松原市町会連合会会長ご逝去により、会長代行に委員をお願いする事になったことの報告。新委員紹介。
前回は、オーストラリアからFCACの生徒が来校中であり、一年生の英語集中講座と合わせて見学をした
後、会議を行った。今回は、学校経営計画の進捗状況を中心に、ご審議いただきたい。

3 協議

(1) 本年度の学校経営計画(重点目標)の進捗状況について【資料1】

- ・3の1の(2)のア (国際交流の取り組み) FCACとの相互交流において、協働学習を実施した。また、歓迎・送迎式典では、本校生徒が主体となり取り組んだことは、評価できる。今後、台湾、韓国へも交流事業を進めていく計画である。
- ・3の1の(1)のイ (生徒の自学自習時間の確保) 1・2年生平日の平均は90分が目標だが、60分台である。また、1時間未満の生徒も30%台いることは、ここ数年来の課題である。本校と同じ進学校として、その取り組みを参考に得ようと、岩手県盛岡第三高校へ視察に向かった。以下報告。
- ・岩手県盛岡第三高校の視察報告
全国的に見てアクティブラーニング先進校である当校は、参加型授業の取り組み等により、進学実績も東北地方トップクラスへと伸ばしてきた。その取り組みに至る経緯、学校の現在の様子、生徒の様子などを紹介した。

(2) GLHS事業、SSH事業の進捗状況について【資料2・3】

- ・GLHS予算配当と執行状況の説明。Eキャンプは、予算が減っている、T-NET を配置している、語学研修付添旅費を骨太の英語力予算と合わせて充てた。以上執行済み、残額で盛岡第三高校に視察旅費を充てた。
- ・SSH事業の説明
今年度のミラクルチャレンジの説明、中間発表会の生徒発表テーマ一覧に、代表班の発表要旨。

(3) 第一回授業評価の結果について【資料4】

- ・学年別、教科別の結果について説明。予習復習は教科によって課される違いがある。理解度や興味関心の高まりが重要。それぞれの授業改善に役立ててもらおう。

(4) 平成28年度使用教科書について【資料5】

意見書の提出状況について

- ・各教科の選定理由を付けて選定した。普通科は検定教科書、文理学科は独自の教科書を採用できる。
- ・意見書の提出はなかった。意見書については、ホームページに様式がある。新入生保護者には、説明をしている。

*質疑応答(以下役職名省略)

(1)

○中学校でも『授業改善』『学力向上』に取り組んでいる。参加型授業と受験に必要な学力を身につけさせる事との関わりに苦労している。

- ◆進学校で取り入れるのはどうか、という思いはあった。ただ、全国的にも見ても先進の授業取り組みで進学実績を上げている学校があり、本校も参考にしていきたい。
- 学習指導要領にもあり、取り入れるべきである。
- 夢を実現するために勉強している。楽しく勉強できて進学率上がるのはいいが、楽しいだけではいけない。
- ◆「大学入学希望者学力評価テスト」「高等学校基礎学力テスト」の説明。思考力・判断力・表現力を踏まえた作問となること。高校の授業も変わっていかなければならないこと。
- 3の1の(4)のア (30日以上欠席者) 昨年の9名が今年改善されて3名か。
- ◆昨年度の数名は、改善の取り組み以前に、進路変更や転学の申し出があった。
- 自学自習時間の目標設定は、難しくないか。
- ◆1時間未満の生徒割合が高いのは学力向上にとって良くない。クラブに逃げる、不安になると塾に頼る、自分の家では勉強しない、などが理由か。
- 大手教育産業の情報によると、1年生の4、5月が勝負とのこと。学習のスタイル・リズム・方法などの定着が必要である。日課表や予定表のようなものを書かせるという手もある。目標達成率(目標の90分に達している生徒の割合)を出して、到達度の低い生徒には別対応すればどうか。60分を90分にするのは可能だが、0分を90分にするのは大変難しい。
- 中学生も両極端である。平均値はいない。どこでスイッチを入れるかである。
- ◆3年のクラブ引退してから、では遅い。2年3学期からが必要と訴えている。
- 現2年が36% 昨年1年が37% という事は、昨年からの生徒達はほとんど変わってないということ。つまり1年のはじめが重要といえる。
- 90分達成率を次回出してほしい。 →次回へ
- 10年前より国際交流の取り組みが大いに広がっているのはいいこと。
- 3の2の(1)のウ (国公立大学進学率) 現役浪人の割合を分かりやすく出してほしい。 →次回へ
- 外部に向けては、よりよいデータを発信するべきだ。
- ◆今年の浪人生は、約60%が国公立大学に合格している。
- (2)
- 前回Eキャンプを見学したが。講師の力量の差は？
- ◆予算が減額したことにより、ネイティブ講師の人数・講習の回数が減り、グループ班の人数が増えた。
- 中学校はネイティブ1人につき生徒40人。高校は手厚い。
- 事前打ち合わせで、校内の意向をどれだけ伝えているか。
- ◆業者は以前から同じところ。講師も以前経験有りの人に来てもらっている。打ち合わせは出来ている。規模縮小という予算減の影響が大きい。
- ◆骨太の英語力予算がある。10校+7校に対して。合わせて語学研修の付添旅費に当てている。SETによる授業は来年から実施。
- SSHの予算は減ってきているのか。
- ◆減っている。
- 満足度は。
- ◆概ね高い。生徒の希望により、行事を精選している。
- (3)
- 若い先生もいる。先生同士でアドバイスなどは。
- ◆授業見学や研究授業を行うことを学校の目標にあげている。
- 肯定度はほぼ80%は、すばらしい。ただ、“授業が分からない”に対しては。
- ◆先生個人にも、データを渡している。校長が指導することもある。
- (4)
- 普通科と文理学科で教科書の難易度は違うのか。検定教科書以外も使えるということで。
- ◆教科によって、同じであったり、違っていたりする。
- 意見書を保護者として広めたい。

◆ここでの意見書は、当協議会で諮ってほしいことを提出するものであり、保護者からの意見等は、学校教育自己診断（保護者用）のほうで、毎年たくさんの意見を頂いている。

（５）

○最後に、委員の皆様から意見を頂きたい。

○卒業した子どもが、高校は良かったという。大学よりも高校の英語の方が難しかったと。高校で鍛えてもらったからと。これからは実践的な英語を学びたいと言っている。

○入試制度が変わり、アドミッションポリシーで１０％の可否に関わってくるという。是非生徒を伸ばしてほしい。

○初めての参加だった。委員としてこれからしっかり取り組みたい。

４ 閉会宣言

５ 事務連絡

当協議会の第３回は２～３月を予定。委員の皆様には事前に連絡し、日程調整させていただきます。

本日はありがとうございました。